

灰塚ダムにおける貴重種保全活用に関する取り組みについて

建設省江の川総合開発工事事務所 正 会 員 衛門 久明

建設省江の川総合開発工事事務所 特別会員 山田 啓一

建設省江の川総合開発工事事務所 特別会員 ○溝田 亨

灰塚ダム建設予定地である広島県三良坂町、吉舎町及び総領町周辺は、山野草をはじめとする貴重な動植物が数多く存在する西日本有数の地域である。これらの植物は、環境庁及び広島県のレッドデータブックに記載されているものが多く、町の天然記念物にも指定されている。

江の川総合開発工事事務所では、灰塚ダム建設事業で影響を受ける貯水池周辺に自生する貴重な動植物の保全方法及び活用について、地元と連携しながら自生地監視・移植・育成管理を行うこととしている。

ここにその現状と今後の計画について、また、地域振興につながる地元での取り組み状況を報告する。

1. 灰塚ダム周辺の貴重種の状況

前述したように本地域における貴重植物は、貯水池内全体に広く分布しており、春植物の個体群が中心である。代表的なものはカタクリ・アマナ・ヒメニラ・キバナノアマナ（以上、ユリ科）、セツブンソウ、ユキワリイチゲ、アズマイチゲ（以上、キンポウゲ科）サクラソウ（サクラソウ科）、レンブクソウ（レンブクソウ科）などがあげられる。

広島県では、春植物は中位面（吉備高原面）に主に分布しており、沿岸部にはほとんどなく、一方、中国山地の高所にも少ない。春植物の存在は本地域の大きな特徴といえる。また、春植物は住居周辺の草刈り、雑木林等の下草刈り、水田周辺の草刈り等住民の日常的な生活における管理で維持されてきたものである。このような人里植物は、人為的な影響を受けなくなると自然消滅することから、特に貯水池内における規模の大きな自生地は、家屋移転後も当事務所において草刈りや環境巡視等を実施し、保護に努めているところである。

2. 環境巡視による自生地の監視

昨今の環境に対する情勢に鑑み、ダム事業においても当然のことながら、地域の自然環境に十分に配慮し事業を進める必要がある。また、春植物は山野草マニアの間では人気が高く、比較的高い値段で売買されていることなどから常に盗掘の危険性にさらされているなど、保全上においても新たな問題が生じている。

本地域では、以上のようなことから地元住民の中から地域の環境に精通した人として、三良坂町の文化財保護委員であり、灰塚ダム地質・動植物学術調査団調査員兼事務局長を務めた桑田健吾氏を環境巡視員として委嘱し、貴重な動植物の観察等の巡視活動をお願いしている。盗掘等を発見した場合は、自然観察にとどめ盗掘を行わないよう指導を図る一方、貴重植物の重要性を説明し保全・保護に協力してもらうようになっている。また、工事の環境保全の巡視も行い、工事における保全方法について貴重な意見をいただいている。

3. 貴重種に関する取り組み

ダム建設事業が進捗する中、工事等により影響を受けることとなった貴重動植物について、地元や当事務所で保護等の対策を実施した事例を以下に紹介する。

1) カスミサンショウウオ移動大作戦

付け替え町道の一部がカスミサンショウウオ（広島県希少種指定）の生息地にかかることから、環境巡視員の指導のもと、地元小学校の児童・町役場・当事務所で、産卵期である平成8年3月に成体（雄）と卵を、生息環境が近いと思われる湿地に移動させた。

2) ダルマガエル生息確認調査

以前、生息が確認された元の水田を従前の水田として再度復元させ、ダルマガエルが帰ってくるかを調査したが、生息の確認はできなかった。学術調査時にダルマガエルの生息調査をされた先生に確認したところ、調査の最終年には声しか確認できず、恐らく鳥類・ヘビなどに捕食等され、減少したのだらうということであった。

3) 水没する貴重植物を守ろう

地元も貴重種保存に対する気運を高めてもらうために、地元主催で試験的に貯水池内の貴重植物を移植する作業を行った。この作業は、貴重植物等の価値や大切さを認識してもらい、保全管理に地域が発揚するとともに地域資源としての活用を図るといった狙いがあった。当日は、地元住民のボランティア50人以上の参加があり、予想以上の反響に驚いている。

4) 小動物が這い上がれる側溝

環境巡視員からの提案として、付け替え道路に併設される側溝に小動物が落ちても這い上がれる坂路を一部区間ではあるが、数m毎に設置している。

4. 貴重種の保全方法とその活用について

平成9年度は、水没する貴重植物等の詳細な把握（貴重植物の種類・現地での把握・成育状況・ダム事業との関連）、移植試験により移植に必要なデータの蓄積と移植後の管理手法の確立、ダム建設事業スケジュールに沿った移植計画の策定、及び周辺整備計画における地域振興策としての活用方法等について検討を行っている。

前述の3. 3) 水没する貴重種を守ろうといった活動は、本検討の一環として発案されたものであり、今後更に都市住民との交流を兼ねた移植作業も実施する予定である。

これを契機にボランティアでの移植作業の拡大はもとより本地域との長期的で継続的な交流へと発展し交流人口も拡大していけば大成功である。

また、移植試験により得られたデータを参考に貴重植物の増殖技術が確立されれば、余剰種子・球根・苗等の供給源として移植先地への補給が可能となる。

5. 問題点と今後の課題

しかし、4. で述べたことについては様々な課題を抱えており、今後それらの整理、解決が必要不可欠となる。以下に現在考えられる課題等について項目のみではあるが整理してみた。

- ①移植手法の確立
- ②移植後の管理体制の確立と負担軽減の検討（継続的な活動としていくために）
- ③移植先地としての受け入れ先の確保
- ④生態系の攪乱の恐れに対する対応
- ⑤保全と活用のバランス
- ⑥地元住民のさらなる理解や協力
- ⑦都市住民の受け入れの施設・体制づくり

6. おわりに

今年度、地元住民の方々に初めて移植作業を行っていただき、予想以上の反響に良好な感触を得たが、前述の課題解決に早急に取り組み、地域の自然環境に十分に配慮したダム事業となるよう引き続き努力していきたい。